

栃市企第91号

平成13年5月30日

栃木県企画部長 田島 進 様
栃木県保健福祉部長 揚松 龍治 様

栃木市長 鈴木 乙一郎

思川開発事業に係る水需要調査の確認について（回答）

平成13年2月23日付、水第199号及び環衛第52-8号により照会のありました標記のことにつきましては、平成13年3月2日付け栃市企第396号により回答したところですが、今回、地下水汚染等による代替水量分を考慮して、下記のとおり回答いたします。

記

2025年における水需要予測量 5,500～8,800m³/日

栃木市企画部企画課

担当：平本、安彦

☎0282-223535内線506

別紙

2025年における水需要予測量の内訳

- ・ 新規水需要量 500 m³/日
- ・ 地下水水源転換量 5,000 ~ 8,300 m³/日

水需要量予測調査表

栃木市・町

区分	H10 (実績)	H12 (予測)	H22 (2010) (予測)	H32 (2020) (予測)	H37 (2025) (予測)	備考
行政区域内人口 (人)	85,318	85,035	86,000	86,000	86,000	
給水人口 (人)	69,717	71,211	80,000	83,000	83,300	娯楽水道2,700人
普及率(%)	81.7	83.7	93.0	96.5	96.9	
1日最大 取 給 水 量 (m^3 /日)	27,150	28,650	37,900	38,300	38,500	
水源内訳	地下水	33,000	38,000	38,000	38,000	
	地表水					
認可水量	33,000	33,000	38,000	38,000	38,000	
純不足水量				300	500	
地下水 源 換 量				5,000	~8,300	

※地下水水源転換量については、H37のみ記入して下さい。

写

区分	1 公開	2 部分公開	3 非公開
部分公開・非公開の理由	栃木市公文書公開実施要綱 第 条第 号該当		

大分類	B	中分類	1	小分類	4
フォルダー名	思川開発事業要望量				

市長	助役	収入役	部長	課長	係長	係	文書番号 栃中企第096号
							保存年限 永 10・5・3・1
合議						起案	収受
水道部長						企画部	10年2月27日
工務課長						企画課(所)	起案
						起案者	10年0月2日
						高橋一典	決裁
							10年0月2日
							発送
							10年0月2日
							公印

意見

件名
思川開発事業に係る水需要調査について

平成10年2月23日付水第199号、環衛第52-8号にて照会のありました標記のことについて、下案にて回答いたしたくよろしいか伺います。

なお、今回の調査はあくまでも栃木県における思川開発事業に対する対応方針を整理することを目的としていることではありますが、回答する数値は、本市の思川開発事業参考量と直結することや、さらに栃木県が一般に公表することなどが考えられますので、申し添えます。

(送)

~~栃市企第3-9-6号~~
~~平成13年3月2日~~

栃木県企画部長 田嶋 進 様
栃木県保健福祉部長 揚松 龍治 様

栃木市長 鈴木乙一郎

思川開発事業に係る水需要調査について(回答)

平成13年2月23日付水第199号、環衛第52-8号にて照会のありました標記のことについて、下記のとおり回答します。

なお、この水需要量の水源としては、思川開発事業に参画し確保する考えであります。

記

2025年における水需要予測量 5,500^{m³}t/日

栃木市企画部企画課
担当 亀田、高橋
Tel0282-22-3535

別紙

2025年における水需要予測量の内訳

- ・ 新規水需要量 500 m³/日
- ・ 地下水水源転換量 5,000 m³/日

水需要量予測調査表

栃木市・町

区分	H10 (実績)	H12 (予測)	H22 (2010) (予測)	H32 (2020) (予測)	H37 (2025) (予測)	備考
行政区域内人口 (人)	85,318	85,035	86,000	86,000	86,000	
給水人口 (人)	69,717	71,211	80,000	83,000	83,300	簡易水道 2,700人
普及率 (%)	81.7	83.7	93.0	96.5	96.9	
1日最大 取水 給水量 (m^3 /日)	27,150	28,650	37,900	38,300	38,500	
水源内訳	地下水	33,000	38,000	38,000	38,000	
	地表水					
認可水量	33,000	33,000	38,000	38,000	38,000	
純不足水量					500	
地下水 水源 転換 量					5,000	

※地下水水源転換量については、H37のみ記入して下さい。

TEL 545-2111 栃木市水務課 電話 545-2111

思川開発事業の参画について

1. 思川開発事業の参画について

上水道については、市民生活や社会の経済活動を営む上で一日たりとも欠かせないものであります。そのため、長期的な視野に立ち、異常渇水、地下水源の汚染、事故や災害にも対応できうる安定した水源を確保することが、本市の発展と安心して生活できる基盤を構築する上で、最も重要であります。現在、全てを地下水源に依存しておりますが、上記の使命を達成するためには、思川開発事業に参画して多種の供給源を持つことが、重要であります。

2. 思川開発事業要望水量

平成6年に県が行った調査に対して、平成22年度に1日9,510 m³を要望しましたが、その後の経済、社会状況などの急激な変化により、当時、予想をしていた行政区域人口や、工業開発の等の進展に大きな影響があり、平成22年度を目標にした第3次拡張事業を策定の中で、1日最大配水量を38,000 m³と想定しました。

現在、県から思川開発事業要望水量の調査が来ており、平成37年までの水需要を想定して行う内容であり、先の2月14日環境衛生課宛て平成37年までの水需要量だけを提出してあります。

調査の最終年度の37年の1日最大配水量を38,500 m³と想定しました。

その水量の中、思川開発事業に参画する要望水量については、下記のように、考察する。

(1) 現在の浄水場は、3箇所ですが、第3次拡張事業の中で4箇所になる予定であります。その中で、現在、最小の能力である川原田浄水場1日5,560 m³を補充出来る水量。

(2) 本市の施設等が機能しなくなったとき、市民が生活出来るに最低水量について試算する。

一般家庭で日常生活を行い節水実験を行ったデータによると、1人1日約100ℓで生活が出来るとのことである。本市の施設等が

機能しないとゆうことは、大規模な災害、事故等であり、上記データ
一の水量の50～60%の水量があれば、対応出来ると考えられる。

(給水タンク等で給水等を行う場合)

行政区域人口 1人1日確保水量

$86,000 \times 0.05 \sim 0.06 \approx 4,300 \sim 5,160 \text{ m}^3/\text{日}$

(3) 現在の確保してある水源の33,000 m^3 を基準に平成37年
に想定した1日最大給水流量38,500 m^3 からの不足と想定すると
の県の指導からすると。1日5,5000 m^3 となる。

※上記内容を考察して、思川開発事業要望水量については
今回1日5,500 m^3 とする。

3. 問題、疑問点

(1) 1 m^3 当たりの水利権の費用負担が不明であり、平成6年の水需
要予測調査を行い、費用負担については平成11年の新聞報道で大ま
かにわかっただけで、本市には今までその事について何も連絡がない。

今回も、積算中でわからないとのことであり、本来費用が判ってから
水量の要望、決定等があるのではないか。

(2) 県南広域水道の1 m^3 あたりの単価が、不明である。

「きぬ水道177円/ m^3 より高い」、水資源対策室の話である。

(3) 現在の地下水源も有効に活用すべきと考え、広域水道について、
安全でおいしく、安い水が使用出来るような、システムづくりも必要
である。